

2021年3月31日

2020年度 総合文化研究所研究助成報告書

研究の種類 ※該当する()に ○を付ける	・共同研究(○) ・個人研究()	
研究代表者 (所属・職・氏名)	看護学部・成人看護学領域助教・丹後 キヌ子	
研究課題名	高齢者男性の前立腺がん患者のスピリチュアリティとケア支援	
研究分担者氏名	所属・職	役割分担
伊藤武彦(いとう たけひこ) 山田 緑 伊吹 愛 嶋田未来	和光大学現代人間 学部、教授(心理学) 看護学部、教授 看護学部、講師 看護学部、助手	統計処理およびテキストマイニング分析および原文参照 によるナラティブのグループ化 海外の文献の検索およびナラティブの分析 海外文献検索とナラティブの教材化と教育的活用 質的データの Kategorization 作業
研究期間	2020年4月1日 ~ 2021年3月31日	

研究実績の概要(1)

研究目的

国立がん研究センターがん対策情報センターによると、2014年のデータでは男性がんの中で前立腺がんの罹患数は第4位であり、2017年の年齢部位別がん死亡数割合は、65歳以上の老年期でその割合が増加している。前立腺がんは世界的に罹患率の高いがんであり、中高年に多く見られる。近年、わが国において高齢化社会の到来・食生活の欧米化に伴い、また、診断法の進歩によって早期発見が可能となったことも影響し、前立腺がん患者は増加している。山崎・丹後(2019)は、前立腺がんの早期発見が可能となり、前立腺全摘術を受ける患者が増加していることをふまえ、手術後の主な合併症に性機能障害と尿失禁があり、日常生活の支障となることを示し、QOLが低いことを明らかにした。前立腺がん患者の体験は多様であり、患者のQOLを検討する際には身体的・心理的・社会的な観点に加え、セクシュアリティも含めたスピリチュアルな面が重要である。

いとう・大高(2014)は、乳がんと前立腺がんの語りをDIPEX-Japanのインタビューデータに基づいてテキストマイニング分析をおこない、前立腺がん患者固有の語りの特徴をある程度明らかにした。しかし、スピリチュアルな側面の検討は十分ではなかった。佐口・いとう・丹後(2018)は、日本におけるスピリチュアリティ研究は、質量ともに発展してきていることを明らかにした。そのためには患者の声を聴く必要がある。そこで本研究では前立腺がん患者の声を集めたデータベース、DIPEX-Japanのインタビューデータの二次利用をおこない、また出版物も参考にしながら、前立腺がんのスピリチュアリティの解明をおこない、さらにはスピリチュアルなケア支援の方策を明らかにすることを目的とする。

研究方法

認定 NPO 法人 健康と病いの語り DIPEx-Japan が運営する「健康と病いの語りデータアーカイブ」の語りのデータを二次的利用する。50 人の前立腺がんの語りは、前立腺がん当事者たちのスピリチュアリティを明らかにするための題材である。テキストマイニングによる量的分析を手がかりに、スピリチュアリティについて「自己存在の根源性」をキーワードとして、人生の語りに着目した質的分析をおこなう。

[研究デザイン]テキストマイニングと質的内容分析による混合研究法（収斂デザイン）。

[対象]面接記録のローデータ。[データ収集法]データシェアリング。

[データ分析方法]

A テキストマイニング：インターネットに接続していない PC を用いて Microsoft Office Excel によりテキストマイニング用にタブ区切りデータを作り、Text Mining Studio に読み込ませ、前立腺がん患者 50 人分の語りのテキストマイニング分析をおこなう。具体的には (1) 基本情報、(2) 単語頻度解析、(3) 係り受け分析、(4) 患者の属性による特徴語分析などをおこなう。

B 質的内容分析：A の単語頻度解析結果をもとに、より当事者自身のことが語られていると推察できる単語をてがかりに、原文参照機能を活用し、文脈を読み取り、質的にスピリチュアリティに関連する表現を分析し、前立腺がん患者のスピリチュアリティの抽出をおこなう。質的内容分析の結果を海外の文献と関連付け、現代日本男性のセクシュアリティもふまえた分析と考察をおこなう。

C:混合研究法的統合：A と B の分析による総合的解釈を行う。

[倫理的配慮]データシェアリングによる二次的資料が対象で直接ヒトや動物を対象としていないが、DIPEx-Japan の倫理委員会の承認を得て実施する。

2021 年 2 月に開催される EAFONS2021 フィリピンでポスター発表をおこなう予定であったが、コロナの影響で、共同研究者と対面でデータを進めることができず、研究計画が大幅に遅れているが、今後も引き続きデータ分析を進める予定である。

研究発表(印刷中も含む)雑誌および図書

なし